

事業番号	04 03 09	事業改善シート（24年度実施事業分）		<input type="checkbox"/> 予算要求	<input type="checkbox"/> 予算案	<input checked="" type="checkbox"/> 点検
事業名	広域災害・救急医療情報システム運営事業			担当課	部局	健康福祉部
					課・室	医療推進課
<参考> 総合5か年計画	プロジェクト			E-mail	iryo@pref.nagano.lg.jp	
	施策の総合的展開	6-1 健康で長生きできる地域づくり 4 医療施策の充実		実施期間	S59 ~	

1 事業の概要

目指す姿	インターネットを利用して、救急・災害・周産期医療に関する情報、医療機関の機能に関する情報を収集し、県民、医療機関、消防機関等に必要な医療情報を提供する。
現状	<ul style="list-style-type: none"> 救急応需情報については、医療機関による空床情報の更新率が低いことなどにより、消防機関による利用率が低い現状がある。 医療機関の機能情報の収集及び提供については、県民による適切な医療機関の選択のため、普及・啓発を図る必要がある。

県が関与する理由	<input type="checkbox"/> 法令等義務 <input type="checkbox"/> 内部管理 <input checked="" type="checkbox"/> 県でなければ実施不可 <input type="checkbox"/> 民間、市町村でも実施可能だが、県関与の必要性有 <input type="checkbox"/> その他()	<input type="checkbox"/> 【左記の説明、根拠法令等】 医療法、薬事法、救急医療対策事業実施要綱、医療提供体制推進事業補助金交付要綱、長野県広域災害・救急医療情報システム運営事業実施要綱
----------	--	---

事業内容	① 成果目標 (H24)					
	<ul style="list-style-type: none"> 救急告示医療機関による応需情報の入力回数 1回/1日 : 現状以上を目指す 消防機関によるアクセス数 2,000件以上 					
	② 事業内容 (単位:千円)					
		項目	実施方法	H24事業実績		H25
				(当初)	(決算)	(当初)
	1 広域災害・救急医療情報システム賃借料	直接	システムの賃借 (5年契約 H23年10月~H28.9月)	35,873	35,873	35,873
	2 運営委託	委託	広域災害・救急医療情報システムの運営を県医師会に委託	2,286	2,286	2,286
			合計	38,159	38,159	38,159

事業コスト	区分(単位:千円)	22年度	23年度	24年度	25年度
	前年度繰越				
	当初予算	34,813	38,279	38,159	38,159
	補正予算				
	合計(A)	34,813	38,279	38,159	38,159
	国庫支出金	10,837	11,992	11,992	11,992
	県債				
	その他()				
	一般財源	23,976	26,287	26,167	26,167
	決算額(B)	34,561	38,874	38,159	
概算職員数(人)	0.10	0.10	0.10	0.10	
概算人件費	832	826	826	826	
概算人件費(C)					
概算事業費(B(A)+C)	35,393	39,700	38,985	38,985	

成果目標の達成状況					
項目	現況(見込)	H24			H25目標
		目標	成果	達成状況	
応需情報の入力回数	0.5回/1日	1回/1日	1.1回/1日	達成	-
消防機関によるアクセス数	5,380件	2,000件以上	2,364件	達成	2,364件以上
※現況はH23年度の実績であり、システム更新作業のためアクセス数が過大である。					

目標に対する成果の状況	<ul style="list-style-type: none"> 救急告示医療機関による応需情報の入力回数が目標の1回/1日を超え、所期の成果を挙げる事ができた。 消防機関によるアクセス数が目標の2,000件以上を達成できた。
-------------	---

2 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか。	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施
	アクセス数はシステム更新があった年度に比べ減少してはいるが、より使い勝手の良いシステムを研究していく。